

# 2026年3月期 第3四半期決算補足説明資料

2026年2月10日



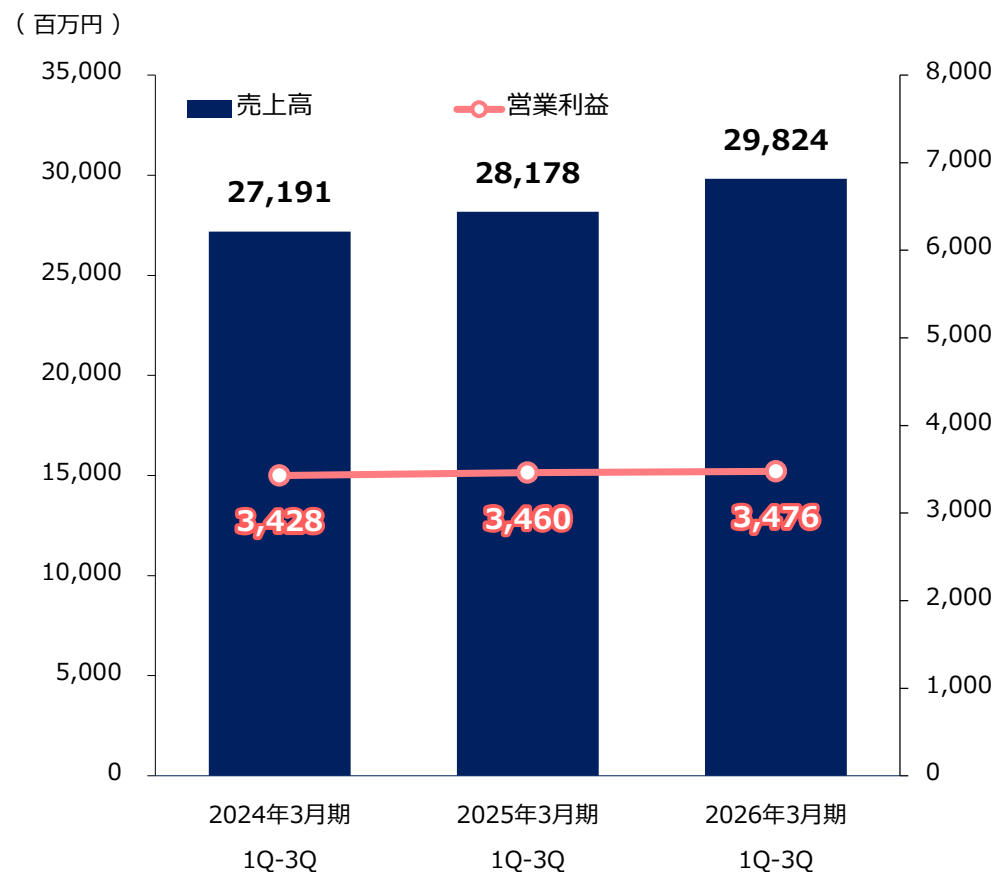
レオン自動機株式会社  
RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.  
証券コード（6272）

## ◆ 連結計算書サマリー

(百万円)	2025年3月期 1Q-3Q実績	2026年3月期 1Q-3Q実績	増減額	増減率 (%)	2026年3月期 通期業績予想 (進捗率)
売上高	28,178	29,824	1,646	5.8 %	40,520 (73.6%)
営業利益	3,460	3,476	16	0.5 %	5,230 (66.5%)
経常利益	3,703	3,803	100	2.7 %	5,320 (71.5%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,594	2,754	160	6.1 %	3,600 (76.5%)
期中平均為替レート	USドル= 152.57 円 ユーロ= 164.83 円	USドル= 148.74 円 ユーロ= 171.83 円	—	—	USドル= 146.00 円 ユーロ= 168.00 円

※四半期ごとの計画開示は行っていないため、通期業績予想に対する進捗率を記載しております

## ◆ 過去3年の業績推移



### 主な増減要因

- 前期比で売上高は増加、営業利益は微増
- 売上高への為替影響額▲253百万円
- 主な営業利益の増減要因

売上総利益      + 304百万円

広告宣伝費増加    ▲222百万円（欧米展示会費用等）

USドル	143.29 円	152.57 円	148.74 円
ユーロ	155.29 円	164.83 円	171.83 円

## ◆ 食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《 事業別売上高・セグメント利益 》

### 食品加工機械製造販売事業

米国・アジア向けの売上が大きく伸長し全体を牽引。セールスミックスの影響で利益は横ばい。

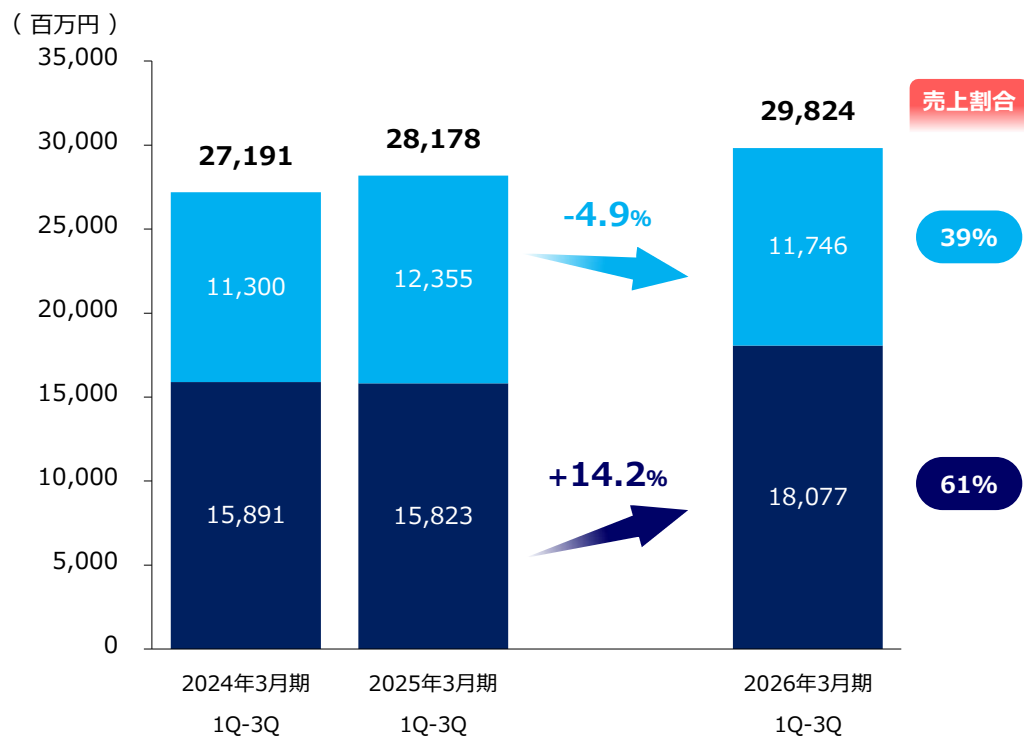
### 食品製造販売事業

米国での現地販売減と円高影響により減収。

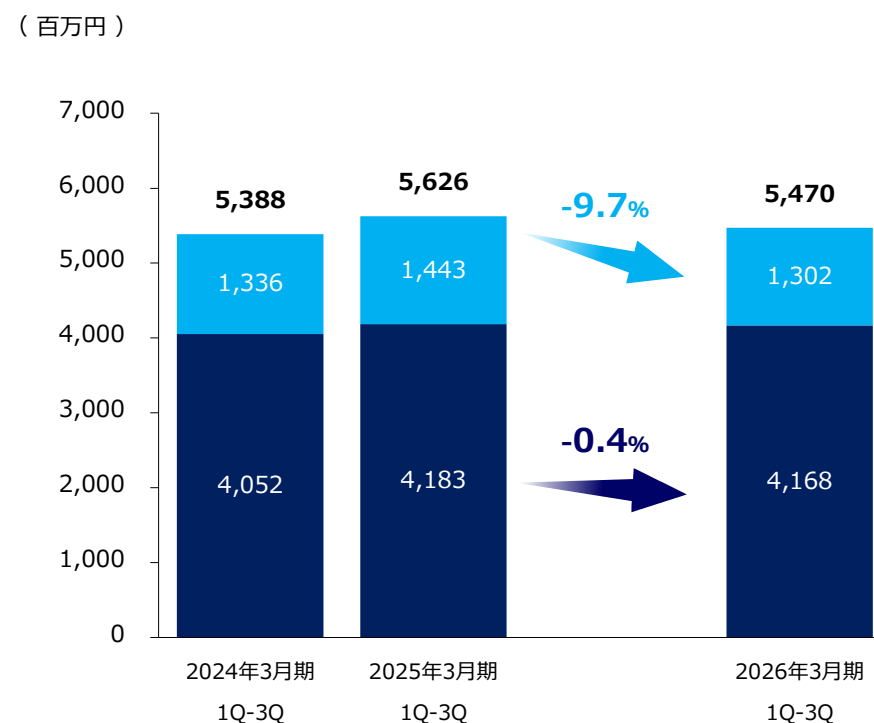
■ 食品加工機械製造販売事業

■ 食品製造販売事業

### 売上高



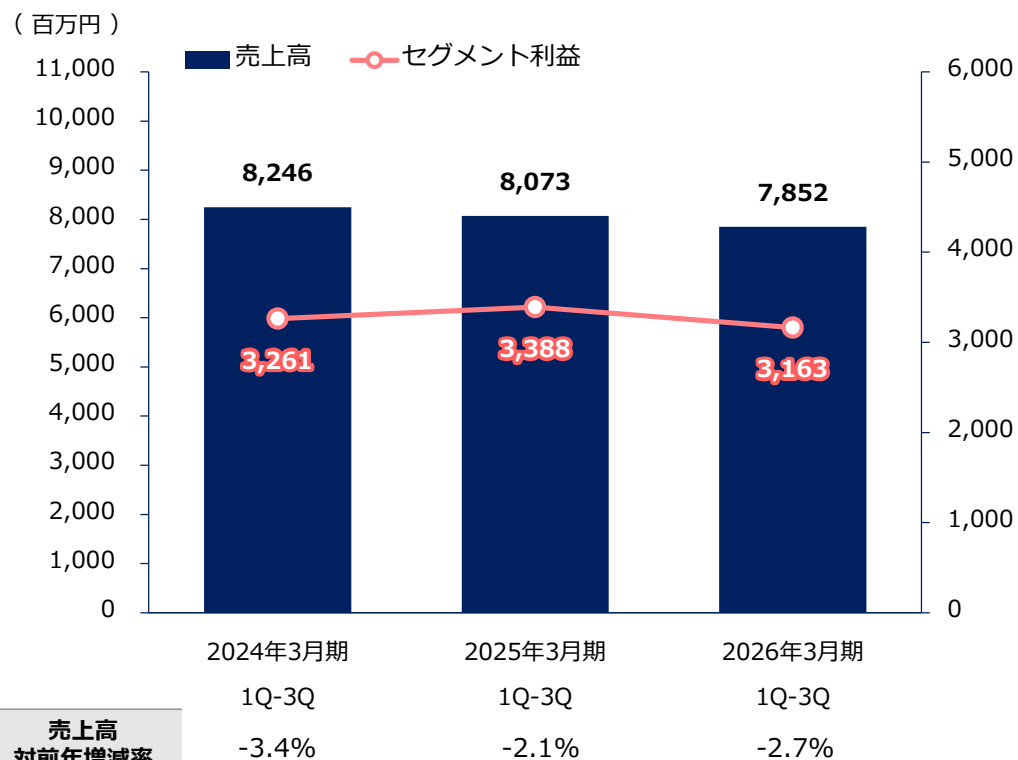
### セグメント利益



## ◆ 食品加工機械製造販売事業 日本 《 過去3年 売上高・セグメント利益 》

- 大型製パンライン等の受注は継続したが、修理その他の売上が減少し、前期比減収となった。
- 4Q（1月－3月）納入案件は増加予定であり、通期計画を達成する見込み。

売上高・セグメント利益



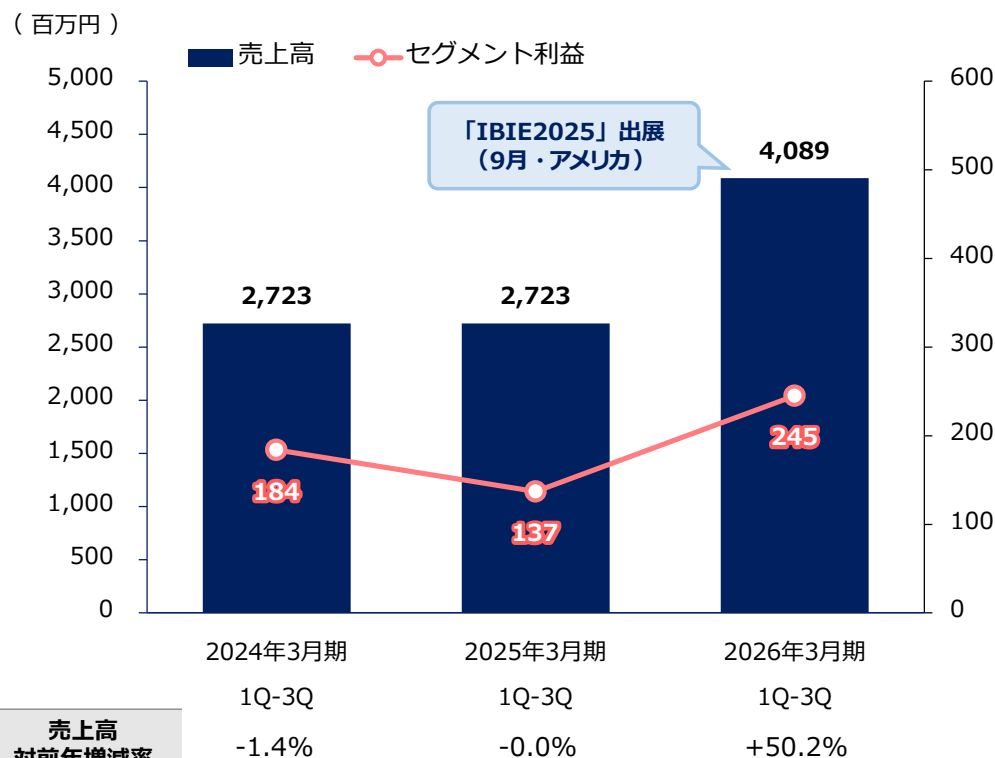
主な増減要因

- 大手・中堅ベーカリーによる  
製パンライン等の需要は堅調さを維持
- 食品成形機は引き続き前期比減少
- 修理その他は前期好調の反動で売上が減少

## ◆ 食品加工機械製造販売事業 北米・南米 《 過去3年 売上高・セグメント利益 》

- 製パンライン等においては、アルチザンブレッド、ドーナツの生産ライン販売が好調で売上が増加。
- 製パンライン等の今期案件は確保できており、来期受注も順調に推移している。

売上高・セグメント利益



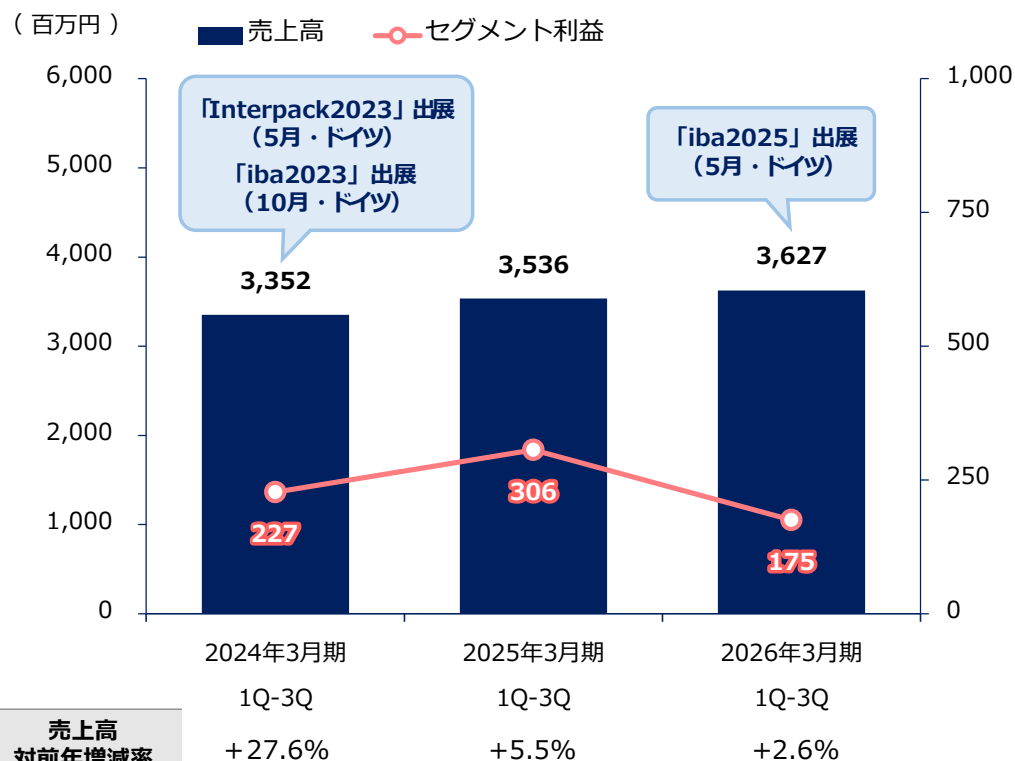
主な増減要因

- 現地通貨ベースでの売上高は  
前期比54.0%アップ
- 対USドルで2.5%の円高となったが、  
販売数量が大きく上回り、売上が増加
- セールスマックスにより売上原価率は上昇

## ◆ 食品加工機械製造販売事業 ヨーロッパ《過去3年 売上高・セグメント利益》

- 製パンライン等は計画分の受注をほぼ確保できている状況で、通期計画は達成する見込み。
- 欧州全域で食品成形機の販売が好調であり、前期比で売上が大幅に増加。

売上高・セグメント利益



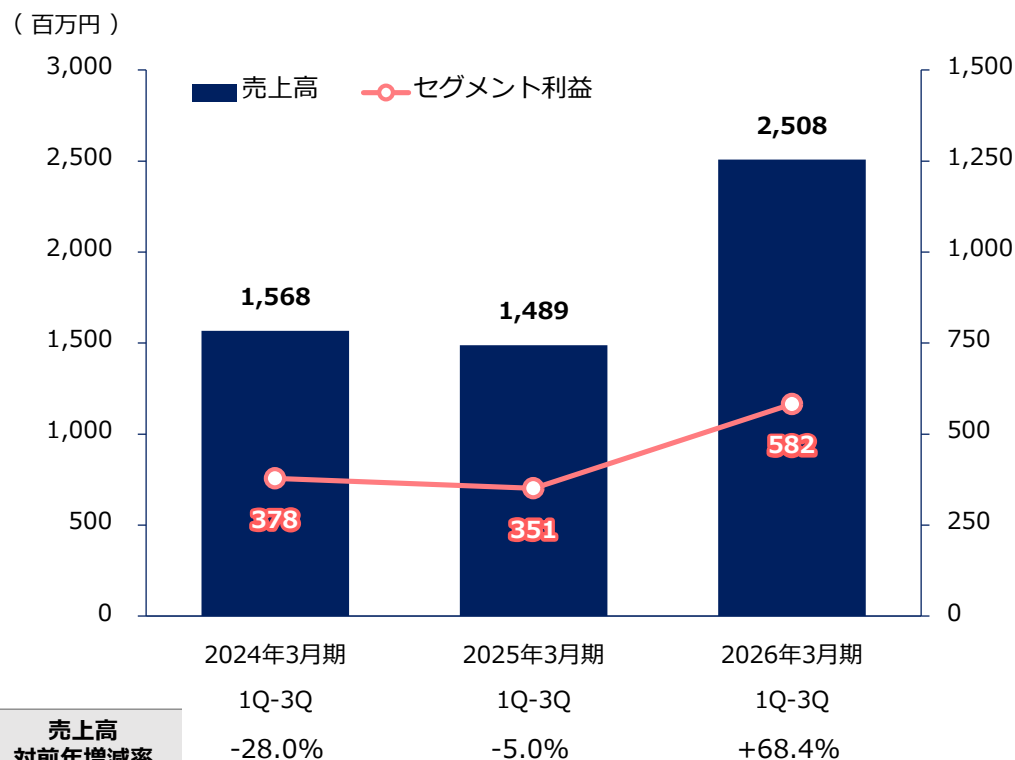
主な増減要因

- 現地通貨ベースでは微減だが、円安効果により増収
- 欧州全域から食品成形機の受注あり
- 修理その他の売上は増加
- 広告宣伝費および販売手数料の増加により減益

## ◆ 食品加工機械製造販売事業 アジア 《 過去3年 売上高・セグメント利益 》

- 大型製パンライン等、食品成形機の大口案件確保等により大幅増収となった。
- 4Q（1月－3月）納入案件は前期比で増加予定であり、通期計画を達成する見込み。

売上高・セグメント利益



主な増減要因

- 売上高は前期比68.4%アップ
- 中国・韓国・台湾向けの売上が増加し増収
- 東南アジアの食品成形機の売上は好調を維持
- 修理その他の売上は減少



## ◆ 食品製造販売事業 《 地域別売上高・セグメント利益 》

### 売上高

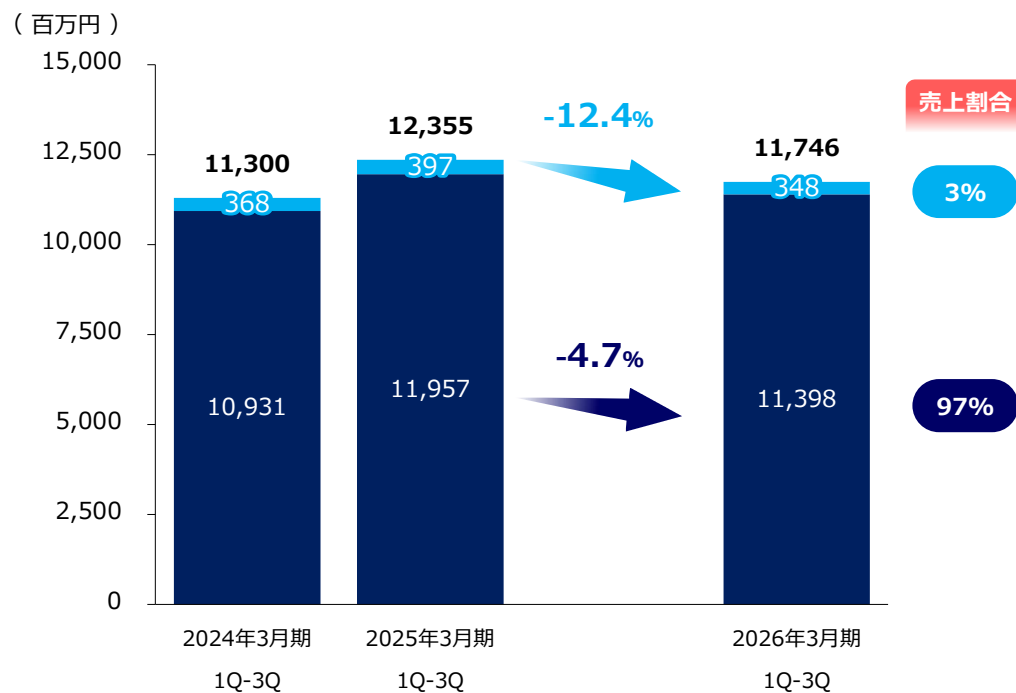
- 北米・南米 3Q（10月－12月）の売上が回復し、現地通貨ベースでは減収幅が▲2.2%に縮小。
- 日本 大口顧客向け売上の減少が継続し減収。

### セグメント利益

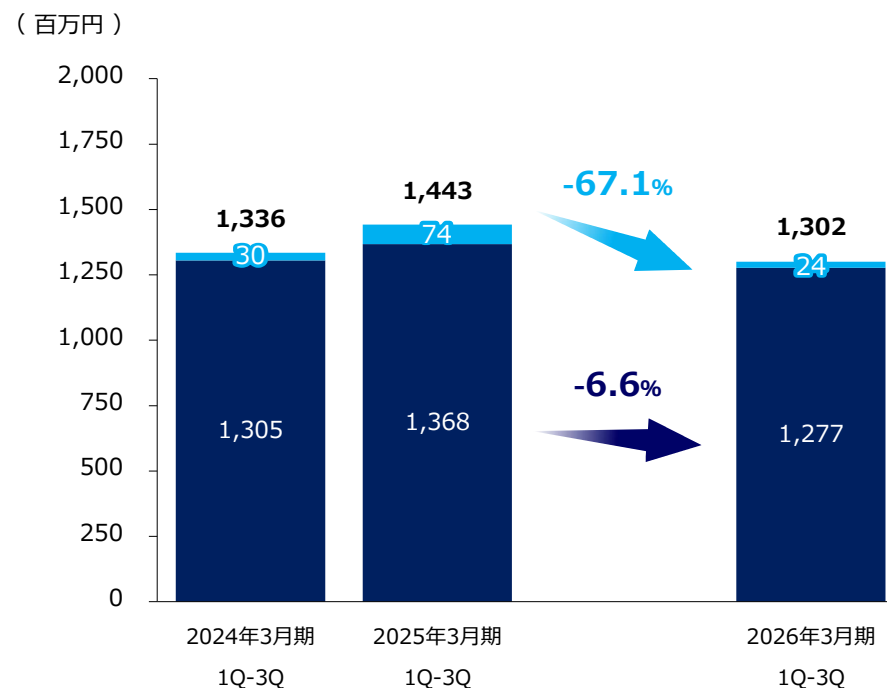
- 北米・南米 原価率はほぼ横ばいであり、営業利益率は11.2%と前期と同水準を維持。
- 日本 売上原価率の上昇により利益水準が大幅に低下。

■ 北米・南米（オレンジベーカーリー） ■ 日本（ホシノ天然酵母パン種）

### 売上高

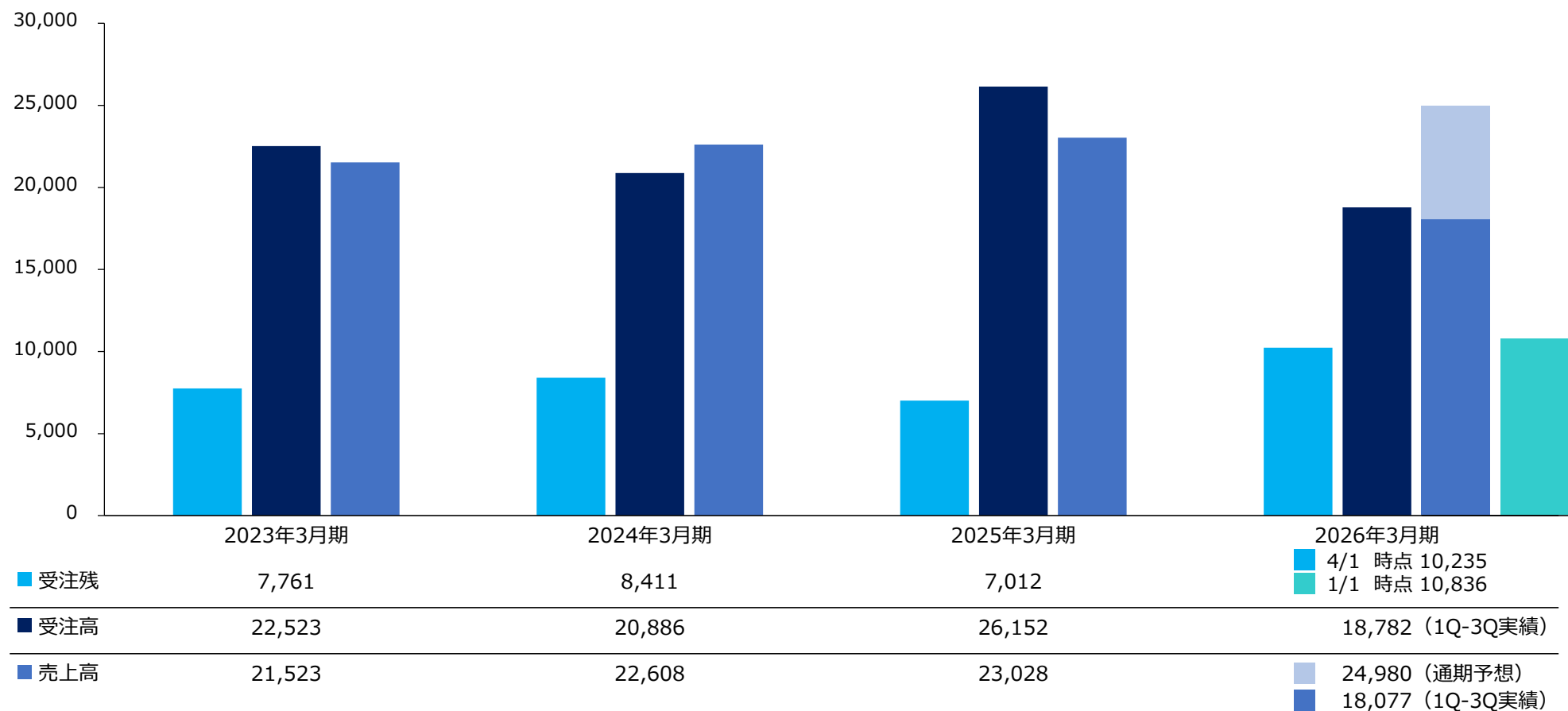


### セグメント利益



## ◆ 食品加工機械製造販売事業 受注高・売上高・受注残の推移

(百万円)

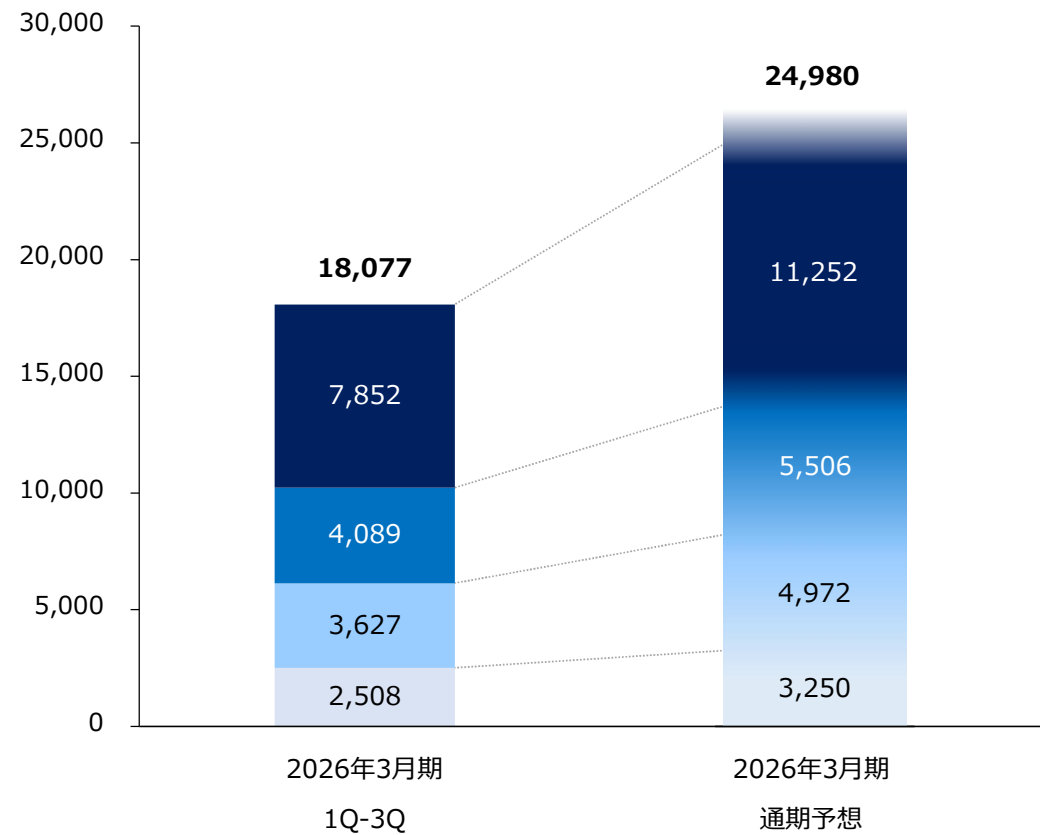


※受注残は4月1日時点

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業

売上高予想

( 百万円 )    ■ 日本    ■ 北米・南米    ■ ヨーロッパ    ■ アジア



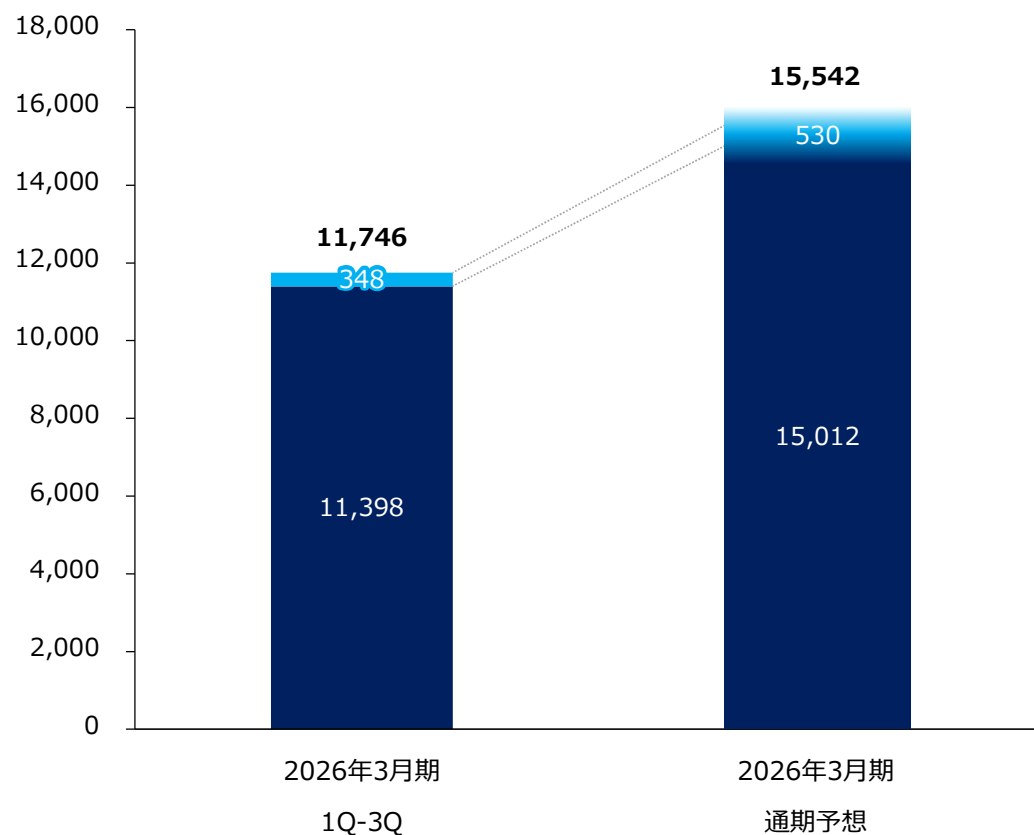
日本	<ul style="list-style-type: none"><li>● 大手メーカーからの設備更新需要は堅調に推移するものと予想</li><li>● 製パンライン等の4Q（1月－3月）納入案件が増加予定であり、通期計画達成を見込む</li><li>● 食品成形機は「中小企業省力化投資補助金」を活用した案件が増加しており、回復を見込む</li></ul>
北米・南米	<ul style="list-style-type: none"><li>● 大型製パンライン等の好調な受注が継続</li><li>● 展示会（IBIE）での見込客へのアプローチを強化</li><li>● 老朽化による機械買い替え案件が増加し、人件費高騰や生産コスト削減に向けた設備投資需要が継続しており、来期受注を確保</li></ul>
ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"><li>● 主力の小型製パン機であるツインデバイダーの販売が堅調であり、ドイツ以外の地域での販売強化を継続</li><li>● 食品成形機は欧州全域において需要が増加し、修理その他の売上也計画通りに推移しており、通期計画達成を見込む</li></ul>
アジア	<ul style="list-style-type: none"><li>● 中国では4Q（1月－3月）に大型案件の売上を予定、また食品成形機の販売も改善してきており、売上は前期を大幅に上回る見込み</li><li>● 韓国に大型製パンライン等、台湾に食品成形機の受注があり好調を維持</li><li>● インドマーケットでは、包あん機や製パンライン等の受注が増加し、売上は前期を上回る見込み</li></ul>

※ 数値は通期業績予想を記載しております

## ◆ 事業別業績予想 食品製造販売事業

### 売上高予想

(百万円) ■ 北米・南米 (オレンジベーカリー) ■ 日本 (ホシノ天然酵母パン種)



#### 北米・南米 (オレンジベーカリー)

- 終売先発生の影響が残り、3Q累計も引き続き減収となった
- 新規先への新商品提案営業を強化し通期での回復を図る

#### 日本 (ホシノ天然酵母パン種)

- 各種展示会への出展、大口顧客への接触強化により拡販につなげる
- 製品講習会や見込客向け個別提案会の実施により売上増加を図る

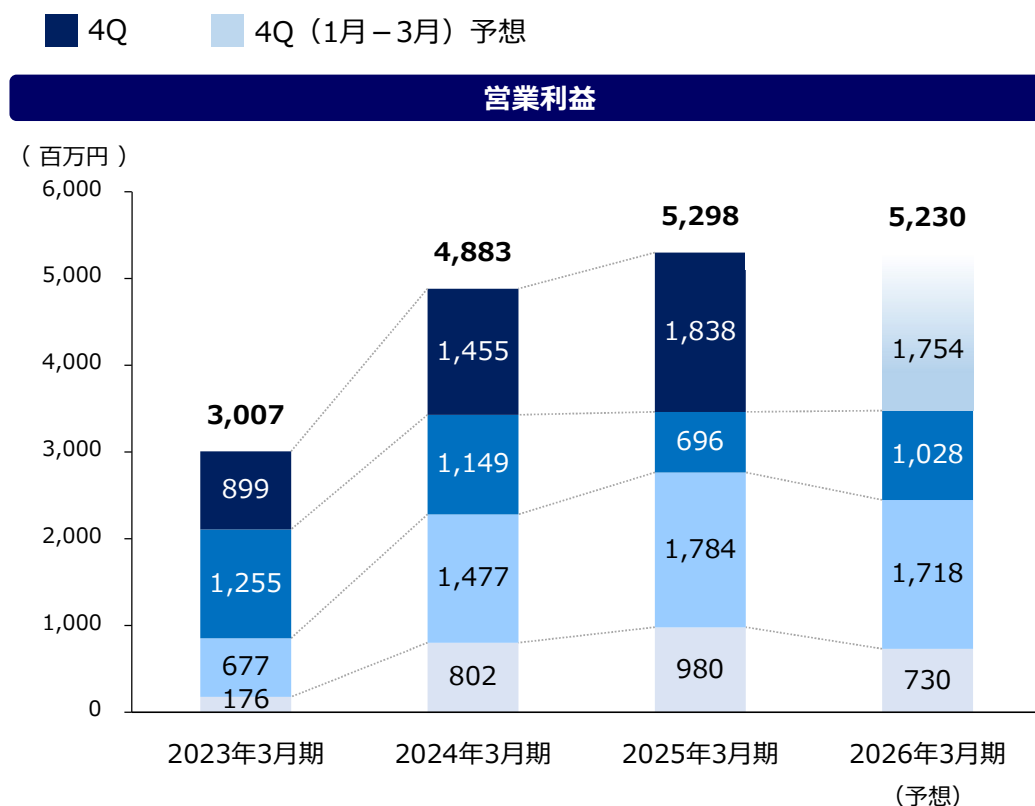
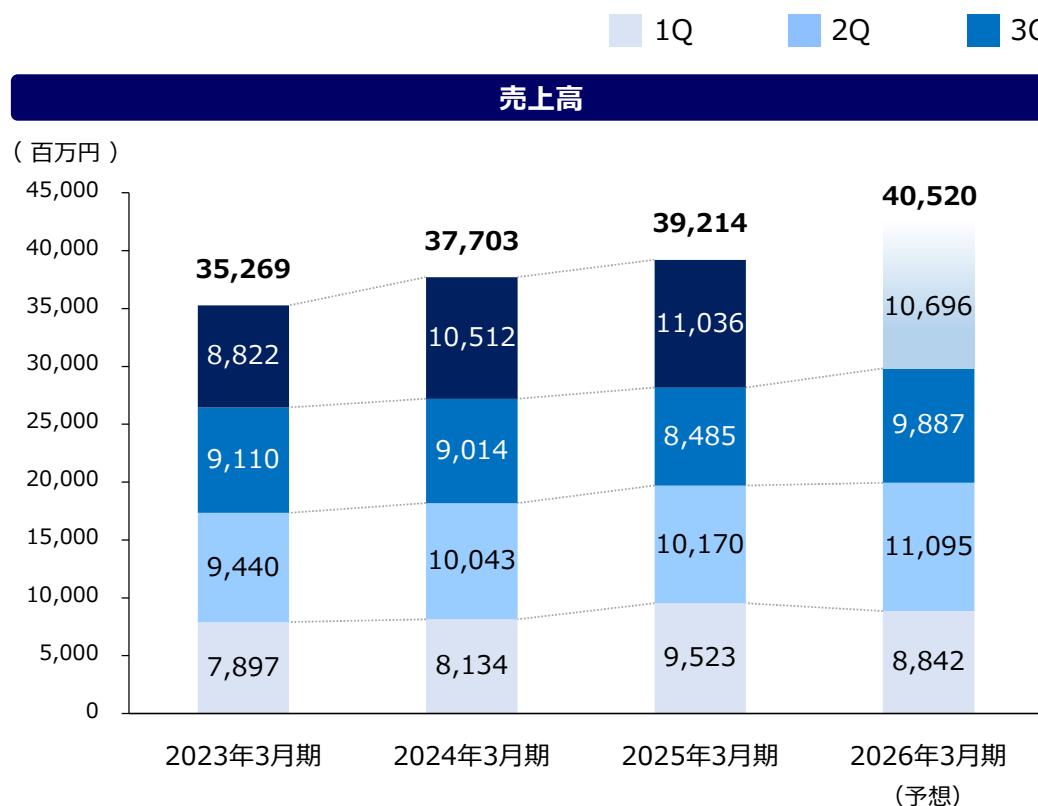
※数値は通期業績予想を記載しております

## ◆ 連結貸借対照表サマリー

(百万円)	2025年3月期 (2025年3月31日)		2026年3月期 3Q (2025年12月31日)				
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	増減額	増減率 (%)	主な増減要因
資産合計	49,242	100 %	52,104	100 %	2,861	5.5 %	● 建設仮勘定の増加
流動資産	29,073	59.0 %	24,184	46.4 %	▲4,889	▲20.2 %	● 現金及び預金の減少 (オレンジベーカー新工場)
固定資産	20,168	41.0 %	27,919	53.6 %	7,751	27.8 %	● 有形固定資産の増加 (オレンジベーカー新工場)
負債合計	10,527	21.4 %	10,805	20.7 %	278	2.6 %	—
流動負債	8,867	18.0 %	9,101	17.5 %	234	2.6 %	● 未払い法人税等の減少 ● 短期借入金の増加 など
固定負債	1,660	3.4 %	1,704	3.3 %	44	2.6 %	● 長期借入金の減少 ● リース債務の減少 など
純資産合計	38,715	78.6 %	41,298	79.3 %	2,583	6.3 %	● 利益剰余金の増加 ● 為替換算調整勘定の増加 など
負債純資産合計	49,242	100 %	52,104	100 %	2,862	5.5 %	—

## ◆四半期毎の売上高・営業利益推移

- 3Q（10月－12月）売上高は米国・アジアの販売好調により前期比16.5%増加、営業利益も47.7%増加と大幅に伸長。
- 営業利益は上期の遅れを取り戻し、前期と同水準まで回復。



※2026年3月期（予想）の数値は通期業績予想を記載しております



### 《 社名の由来 》

レオン自動機の「レオン」は、レオロジー（流動学）に由来します。レオロジーとは、粘性や弾性の流動を解明する科学であり、当社の創業者（名誉会長 林虎彦）が、レオロジーを応用し、世界初の包あん機を開発したことから名づけました。

---

### 【 免責事項 】

本資料の将来的予測に関する業績・事業計画などは資料作成時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的风险や不確実性を含んでおります。そのため、実際の業績・財務状況は今後の経済動向・市場の変化など様々な要因により大きく異なる可能性があります。